



園巻驚奇伝

編四

壹

~ 13
3156
13



3156
13

曲亭翁
編演

印度異獸夜分圖
蘭呼ロイアールト

開卷驚奇

俠客傳第四集

二世 柳川重信画

書林 羣玉堂精刊



羣玉堂

秀庄

治

俠客傳第四集引 善心堂

中納言藤房卿。遁世以後事。太平記天正本及吉

野拾遺粗載之。然而所履歷未詳。正本日藤房遁

世ノ後。朝廷 弥危キニ近カラントス。コト多クハ。天下又靜ナラス。

此人終ニ散 聖道人ト成テ。侃山子トツ申ケル。江湖遍參シ。至ヒシカ。

土州下向ノ時。船中ニテ風波ノ難ニ侵サレ。帰泉シ。ルコソ哀ナレ。

吉野拾遺云。刑部卿義助朝臣の越前國より來りて。物加りて。多し。

せん。のまはる。山。の。う。く。その。あ。城郭。ま。あ。べ。死。処。多。り。け。れ。六。郎。左。衛。門。時。義。

といふ。の。ま。は。る。う。せ。け。る。よ。あ。る。い。を。あ。ん。ん。る。よ。後。あ。く。ふ。り。く。り。け。は。は。川。の。つ。と。

た。う。ま。れ。う。け。る。そ。の。み。る。う。ま。と。う。の。り。け。の。よ。う。う。ま。る。山。岩。の。ま。は。る。て。は。ま。る。こ。い。

あ。め。て。わ。り。ろ。と。い。ひ。う。り。の。石。の。上。は。法。華。經。と。置。け。る。不。り。あ。い。何。あ。ん。ん。と。い。ふ。こ。い。

あ。け。る。山。路。を。た。と。り。來。る。と。え。れ。い。な。せ。お。と。り。入。る。傍。の。表。記。を。ま。る。よ。の。こ。い。い。ふ。こ。い。

あ。や。ど。の。の。か。れ。り。あ。け。る。よ。谷。川。の。水。を。む。ま。し。て。庵。の。内。に。入。り。經。の。ひ。も。を。と。り。は。け。は。け。

と。よ。の。み。と。い。ふ。あ。け。り。ぬ。さ。れ。よ。と。い。ふ。を。れ。ぬ。た。く。か。る。水。行。ひ。し。て。ま。ふ。と。く。あ。や。え。さ。き。き。し。

い。ら。る。人。の。世。と。を。む。せ。け。ひ。け。る。あ。や。と。こ。い。ま。る。ま。そ。こ。あ。い。の。う。あ。と。こ。い。ま。は。け。る。程。の。こ。い。と。

善心堂

かへりてさうく藤房卿の御面影くはるくひまふとありて一條少将を
 寄るひてまわりのける庵のそのまわりの僧いんえはるるを經のありつる石とをこそよ
 あゆむこと世の人のいひえはるる雲よまのてんとあつけゆるを筆たあをよお
 のくやんおひくとの遠の山とをたのめひけれともあふえあつひいと不いあつとのこまひ
 あと人々あゆむを溪落とける所ゆりあひける人のまふあとの山にひて誠よあつるを
 心よそ年月とあひせくはるる君のまむ宿といひてこれののち越のまふはるる道
 あつるあゆむ其後の絶くあつるのまふ此藤房は、大納言宣房の子とぞ才智世
 まれはるる君の中納言まふ成のひる建武のまふ成の春あつる
 世と捨あひん次の段よ又云おねあつる大納言実世卿ののちとつるのぬまのりくあつるけ
 へんとまふせけれ、君のまむ宿のあつるをまふたれひむくまふま墨をえの袖とあつる
 足跡のむくまふあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
 野よあつる草をかりけりあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
 いそ皇居へあつるあつる大和この園かち園々よみとのりくまふあつるあつるあつるあつる
 けれともそれとおねあつるあつるあつる藤房入道のあつるあつるあつるあつるあつるあつる
 太平記天正の載る所と合考れ、常陸州藤澤神宮寺什物有
 事迹うり合考れとあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
 卿遺墨焉。當時卿經過其地。淹留數日于茲。手抄
 殘缺。今猶存焉。雖玉石未辨。而寺說必有所傳矣。

青蓮堂林翁。嚮遊歷到藤澤。因請寺僧。而影寫其
 書。携歸刊刻于家。翁令嗣率陰子。搨刷最精妙。墨
 色光彩。與唐山諸法帖頡頏。遂爲十數幅。贈尚古
 之友。云。當年予亦得諸翁。藏弄稍久。客歲編次。俠
 客傳第三集。附載楠小公尺素。亦有是書在。且也
 腹藁。於後集。將言藤房卿事。是以先重刊林公之
 本。而剽入如前集。是它所藏墨本。尙有似此
 集貼簡端。又當如是大方君子。勿笑予之
 是爲人牽馬。與同好而未得見者。蓋共樂
 天保五年夏月大暑前一日 叢筮漢隱撰

億千萬載 諸位護人

古廟 要須 玄照 人照 培

山谷十九之

不思而玄照之則以祚為之

勅者

灵山付屬 尚 在 代 相 義 承 全 而

珠 日 照 天 隨 行 祥 光 也

如 心 願 舉 踰 業 風 傳 朝 野

之 書 如 公 款

采 澗 殷 厚 以 後

如 行 迹 一 月 前 表

官 表

上流の川の下



二 天のついで



三 子草の投名状



開卷驚奇俠客傳第四集總目錄

壹卷

第二十一回

以毒製毒造化小配劑
臨機應變奸賊投名狀

第二十二回

暴論勵親雷九郎撈龍潭
夜察殺氣姑摩姬夷羣虎

第二十三回

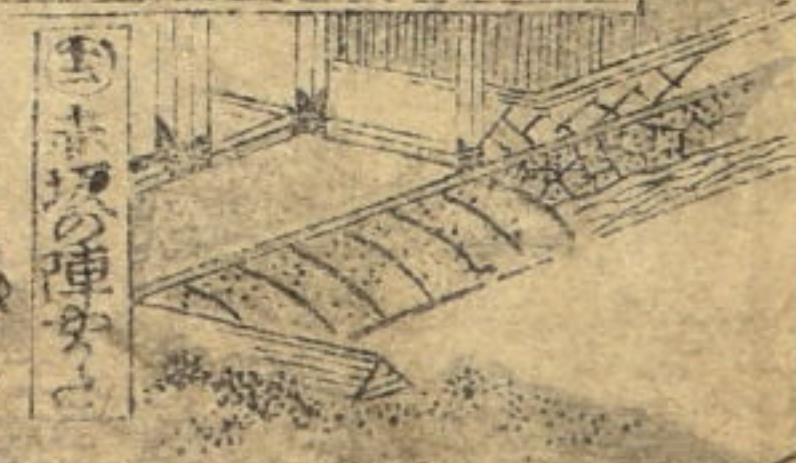
姑摩姬莎庭斬四賊
復一郎後門逞石技

第二十四回

喪子恨五十植作偽書
投名恠荷二郎陷同惡

第二十五回

柱主婦筆柿分贓財
誅殘盜就盛置放免



四 市井の神女



五 都のついで



六 鹿のとめり

叁卷

第二十六回

満家二旋密策
楠女前知得失

第二十七回

假密使雙傳令肯
楠女俠明辨玉石

第二十八回

持永借山眷恋姑摩姬
正直稟囑漫做月下翁

第二十九回

女俠購死猿擬駿馬骨
心猿發狂大猷艾英黨

第四十回

隱形術豪袁救長總
如醴交泰勝結荷二



七 筆師の裏



八 都のついで

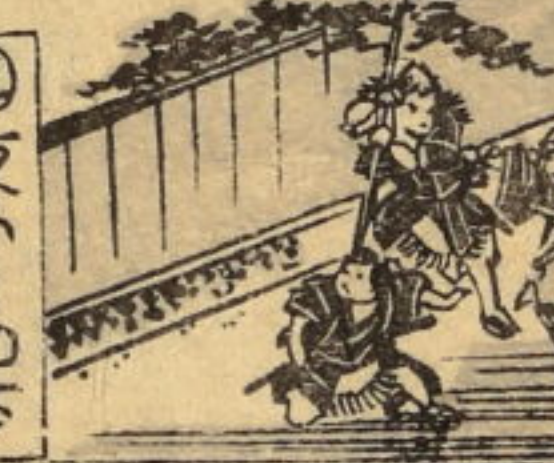


九 筆師の裏



十 筆師の裏

四八九の夜ご



五 夜のついで



六 楠のついで



五卷

總目錄終 本集話説起 應永十八年 盡平九年 冬十二月 其三十一回 已上 總目錄見第三集首卷

四八九の夜ご

四八九の夜ご

誰に彼岸
地上風波
心言不亂
著作堂

楠僕
手作



賢婢
垣衣

牙成蝶子
あまのま
花のま
はのま
夏の世と
さくら

畠山
持永

篠持
蝶鳥



像
第二





金剛禪豪衰

あまのせうりやう

和尚色中餓鬼
佞人藥裡斑貓

頼鳥齋陳人



北白果造中將

俊雅

像卷第五



望まぬ松よ
たのらむやも
かつらねる
くねあもとみち
あけり 信天翁

遊佐河内守

あまのせうりやう

又云第三集の右の四巻の神正の正儀卿の當時從之南朝編年紀事系圖と引く

將相 北白俊雅 畠山持永

武士 湯淺風爐 八郎敦義 小山岡作就安 譽田譽九郎

浮屠 齊天行者豪哀 市人 賣油郎藤松

強人 梁渡念珠 八艘飛魚 筆柿小紋

通計十名 是他有司社客強人之姓名佚者多有不數焉 與第一集至第三集所録列傳二百十名共二百二十名

附の第三集の巻七の復市竹藪の内中投石の処に人物を看官ふ者誰を知せしと作者の稿本に故意各傳を附せし然る何人の所為を推量せし人物の下に三郎とありし彫刺校訂の折敷紛れ作者の心づつていふに又同巻の廿七右の五の義満の覺せし歳月必永十五年四月廿日とあり四月の五月の間の事とあり餘も聊誤寫の看違ふ事あり右の小夜郎と四月の月と堪るれ錯誤の程程なりと印の書肆の傍に示して改め正すべし既而數百編出する後其の看官の事云々と疑難あり六月の書蒲十日の菊の事あり

開卷驚馬奇俠客傳第四集卷之一

東都 曲亭主人編次

第二回 毒と以毒と制を造化の小配劑 機臨と變不應と奸賊の投名狀

再說木綿張荷二郎の財算の計略と塚見木免六の深痕を肩に登下獄りしとどめさすてえちちるぬかき。これとく減と刺ても快く血刀を拭收め他が腰に附け。鍵囊と拐合と鈎索と共侶無事來て走り出で隣る獄舎の戸を閉ふ野干玉の夜のふかしく裏面燈火を指さる。其首小在りといふる約束を毫も破議せむ勿地聲耳と潜しく長総の刀自ぬ木免六の方僅結果ける快事。いそがしたる聲小長総がらゆつて心のもも今ちる事胸を鎮める果敢と膝と踏締て立を違へと荷二郎の舊獄舎に死て血を塗す。木免六の屍骸と指し其示すと長総看り舌と吐れて呆ると半晌許且怕れ且飲ひて

憶おもひて顔かほ加くへて任まかせし今いまよりのち後のちの命いのちとん身み不な盡ませんのこ。遮さりぬ莫な潜ひびる中ちゆうの首くび。
 柳やなぎのこ不ふ便べんせん術じゆつあらむ。とま其まけが荷か二に郎らう介けり。とま黙もく頭づかでぬさび腰こしを鍵と合ふさ。
 那な這こと合ふさ。長なが総そうが身柳やなぎの扁鎖せと披泥ひ合あ棄すて然而しか木き免めん六ろくが要背せ帯おびを脚。
 挿さすの刀やいばと合ふさ身みの帯を七首しゆと防御ぼうえいの與ふと長なが総そうの渡與ありと航かうてお折お折お折お。
 木き免めん六ろくが末末ま張ちやう燈てい撲ぱく地ちと蹴飛けび板壁いた中ちゆうを濃と滅る身夜よの紛れて共とも侶りよ。
 塀へいと乘んと後のちの村の方向かたむきに折ると子こ二にの警言けいごん宵よの雜兵ざへい二に名なもち連れ立たて一個いっの。
 左ひだり右みぎの張燈ちやうていと捍棒けんぼう引ひ提ひて來り來り一個いっの鑢子くわ木きうち鳴なりり。夜よ行ゆくとと喚聲こゑも。
 霜しも天あまの牙と一字いっじ咬かの撞見つ首くびの荷二に郎らう長なが総そう折おりと思おもふと避さる路もるのう。
 此こも怯まる無む敵てきは本性ほんじやう荷か二に郎らう長なが総そう後のち立たりと儘まま遣や違ちがふとあらりと先ま找た。
 一いっ個いっの雜兵ざへい怯おそれとあらりと引ひ提ひる張燈ちやうてい高たか推お抗かて癖者くせ等らと叫林こゝろの息も引せ。
 荷か二に郎らうが内めりる刃の電光でんかう棒ぼうの七禁しちふるも及び不憐れんむと雜ざ兵へいも肩尖さりり。

乳ちちの上うへで破れて苦と叫びのあらま合落おち張燈ちやうていと推潰つぶと死でけ息いきを喚。
 一いっ個いっの雜兵ざへい有あり賊とと喚なりと鑢くわ子くわ木き列れ火ひくち鳴なりと逃にげと荷か二に郎らう血ち刀やいば。
 うち揮う舞ま葱そうと破と敷る刃の牙水みづも溜らる後のち頭づか破やれ走る五六ろく歩ほ去い向むかの。
 石いし跌おち倒れ折る敷る首の鮮血せけん漬ひ放はなされ一間いっかんあらり深くと飛と走とを落。
 ける悠ゆり一程いっぢやう長なが総そう今いまあらま支の為体たい吐はきと多お駭おそれ怕れ身を潜して找と治。
 已ま既まと雜兵ざへい們らの破付やれと透とる倉然さらと顔かほの色も吻と息も冬夜ふゆよ。
 白しろく做りゆ苦く中ちゆうの懺悔ざんげを伏走ふしり近着ちかり荷二に郎らうの雜兵ざへいの捍棒けんぼう合あれと其ま死し。
 示しして身の軀と鑢子くわ木きを撈り合ふと打う鳴なり長総そうの捍棒けんぼうの聲も突突と响ひび。
 ちと那な敬けい言げんごん宵よの如くあらり外そと塀へいを過る塀と踰塀を乘まる准備じゆんびの鉤もあらり。
 のと荷か二に郎らうの丹と投擧なげて長なが総そうと扶登たり身の軀もあらり。踰をる踰る枝枝は枝は木きの似。
 たり左右みぎも外塀へいの城樓じやうろうの邊も來りける這里こゝ石いし垣かきの高くと輒たち登るもあらり。

ぬ。荷二郎が腰に附し、亦只釣索のさるるを伸、其十何餘を松牆索さへあそ
 りて、井より櫓の長総と、扶掖を擧げ、乘て稗懸際を下立ち、この城斬る
 最廣くと七八間もあつんと、あつた備一葉の資を藉らむ、いふくして渡を断然のあつ
 ども、歳極の天の例よりも凍強より、斬る水酷く氷りて、棒と敲く、氷の破るま
 荷二郎、悄々地を懼び、さるる石と、さるる石と、拾起して、投試る、氷の特厚る、荷
 砕け、打り、隨ひ、石の前面、走り、けり、天の幫助、長総も又懼び、棒をさるる、氷の上
 下立ち、荷二郎の扶掖を、前岸、著し、造化微妙、と、悄語を、城と離れ、高明
 小夜の中山のさるる、程、四光村、來り、れ、荷二郎の村、盡く、狐屋の門、備、停歩
 長総、耳に、我も、身も、這容、走、人、怪め、れ、路の難、及、び、我、我、肩
 思ふ、も、あれ、姑且、這里、立、共、侶、逆旅の、準備、せん、身、其、頭、且、其、身
 と、具、後、方、退、け、馳、這、狐、屋、の、門、忙、打、敲、て、妖、魔、の、鈍、梅、の、刀、自、村、長、刀、松、の

使、火、速、の、要、あり、快、起、と、西、三、番、喚、覺、せ、内、出、応、と、回、答、し、連、火、之、鑿、り
 行、燈、移、し、と、馳、指、燭、し、と、戸、開、く、の、鈍、梅、の、刀、三、十、許、を、一、個、の、漢、子
 出、て、來、り、真、夜、半、る、え、長、刀、松、も、使、あり、と、何、其、と、同、く、憶、む、燈、光、を、面、を、照
 志、信、と、和、郎、の、木、綿、張、荷、二、郎、も、何、の、程、か、救、小、遇、さ、る、牢、と、踰、え、小、あ、と、と
 い、れ、各、も、果、荷、二、郎、の、怒、る、聲、を、ゆ、り、立、て、噫、寢、惚、れ、歎、畜、生、奴、が、恩、を、仇、多、密、訴、の
 返、報、此、と、咬、と、抜、敷、の、目、光、し、る、刀、尖、錯、を、件、の、漢、子、の、額、を、破、り、て、叫、苦、と、さ、る、仰、反
 なる、身、稍、起、ま、二、の、大、刀、尻、を、破、り、て、颯、と、潰、る、濃、血、を、曳、り、又、逃、る、遣、ら、と、找、む
 荷、二、郎、の、透、き、を、奥、踏、入、り、支、の、鬧、動、の、臥、房、を、鈍、梅、の、吐、嗟、と、胸、を、潰、し、と、逃、を
 考、小、曹、立、ま、ん、喚、ん、と、欲、去、る、憶、れ、と、聲、を、空、に、横、を、被、り、又、利、刀、立、ま、く、あ、り
 平、張、り、躲、れ、難、なる、將、場、の、雉、子、の、良、人、の、危、窮、も、身、の、危、窮、を、追、追、り、一、程、小
 荷、二、郎、の、件、の、漢、子、の、背、門、へ、逃、ん、と、また、り、と、鷲、鳥、の、似、く、趕、捕、て、韓、竹、割、の、破、什、ある

刀も拭いで引返さ臥房の内へ猶も尻を鈍梅が横引被浴で弥陀仏々々を唱
 たる頭響と抗し引搦出さ岡擡くと膝布締てをれ淫婦奴荷二郎を思ひ仇做さ
 報ひの恨むと責れ戦く呼吸苦しい許しあふ声と共閃く水の刃尖左の丁と探返
 きて胸前鬪敵と刺串け血の熱と散りて壁掛り一葦丹葉野中の樗木を霹
 靂の裂れて枯る命ある時あり虚空と抗て息絶けり然り又荷二郎の外の外へ在
 ると四下と隈多く歩獵り絶て人影もせらるるわがを外立立と透し眺め長総を招
 け各其處で權且入りて休むとよ長総の訝りわが引れて内へ入るる主人とおけり男
 女二名の那とは這とふ砍伏され獵の獲の野緒似れば是は何處とをら怖れて退れぬを
 せし荷二郎急な披替りて訝りあふ這奴們の我と我身の仇を復し復したるごとく
 下りて具の報ぎを訝り思ひ度々の情と説示さん飲冬の夜のいと長多も曉るぬ尚程
 もあふ今解諦を来歴より聞き茶湯沸ね冷飯をも索出て腹と造りて邁へ

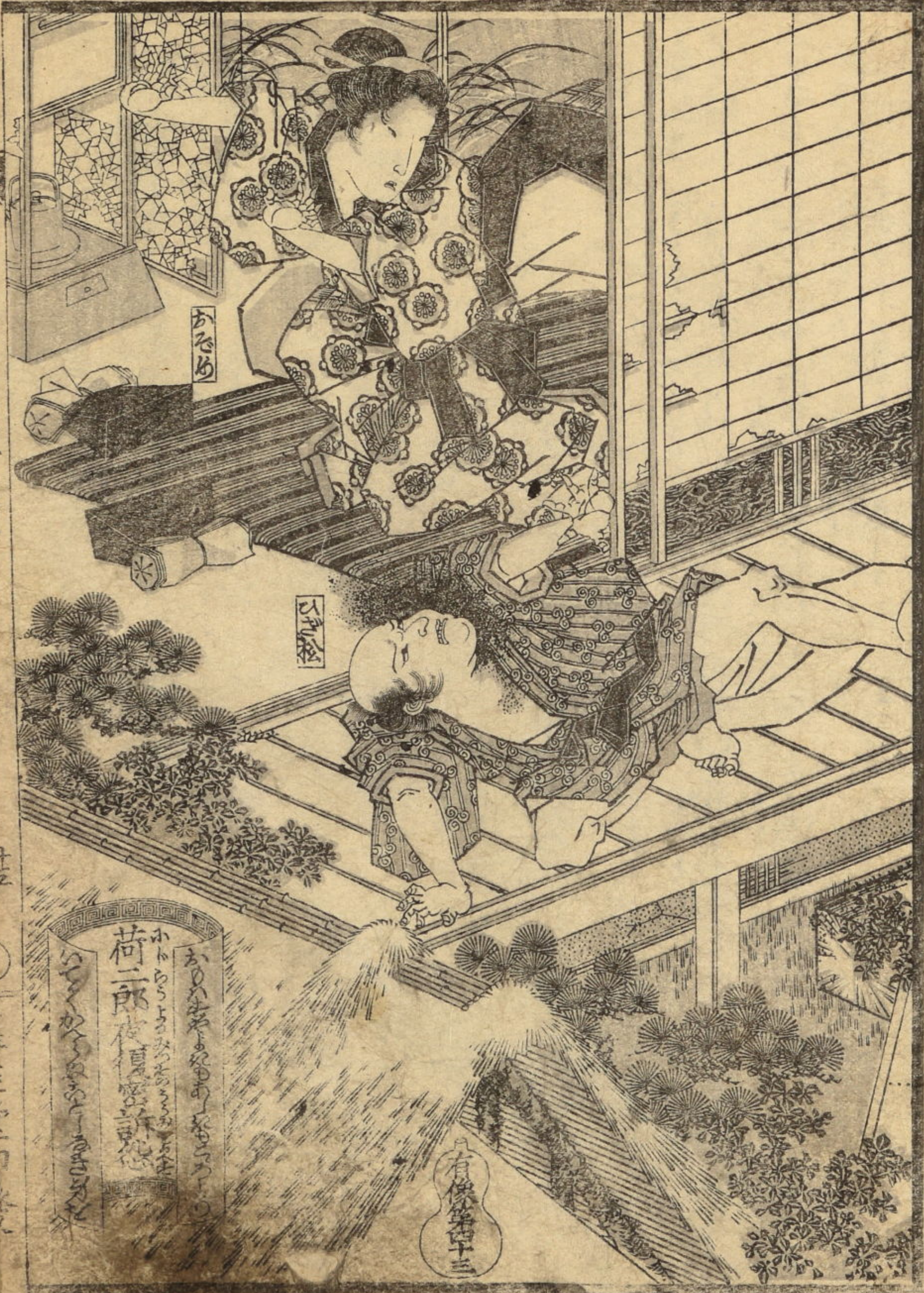
けれ先々とのひくもそ身と起し門外立入りのやうと那這とをさかせる戸引て
 きたる合笑大さく昔の処小坐と占れ長総の胸安くと獨行をさし土炕の頭か
 ようて強ぶりの埋火と撥起し焼着る柴の杜枝が花火口移れ変わる身の久後と儘せ
 人の自在金酒家も尻を炙りて去向を急ぐ大胆無敵の荷二郎も土炕の頭か膝と找
 け叩胡坐落着貌小聲と低め喃俺妹児聞き方絶殺したる男女二名の我と我身の
 怨敵は這頭の名とのぞ知さるん曾根川と新阪の間の丁四老を瘦村を隣舎を
 遠く然り又那街妻小夜と誣る鈍梅又那漢子の賣油兒を膝松と喚做したる
 亦是這頭の獨脚兒鈍梅が與の奸夫を昔の主人轍三の最各畜多性を
 の身と入れ人交りせせりか村人通て丸弾と藪阪の名を履たる
 淫婦を良人の酷と相親の最醜を疎すくと思ひけん那膝松と密會ひて我
 も初知りし膝松も賭錢を好み我身這地へ來ぬ此より一席を連下り日も暮るれ

疎うと。さるほどいささうあるひこれら。和主唱門小憑れて我村の皷云々結果
 のつら辛苦銭の小判十兩翌ともいひ傳本日小取せん情由の徳々箇様々を鈍梅と夫婦小
 るるま欲る。癖の顛末奸夫淫婦の情願を送ゆ。示して言く相譚れ。我の折
 賭の輸けり。那膝松小債あり。素よりと余る筋小找り。日か多本性ある。言毫も候
 謀せ。領迄。さるる左せ右ねと謀。合つる次の宵小。這里の背門より潜入り。折
 う。主人皷三の猛可。發り。病苦小堪ま。打俯多。嘔吐在り。思ひ隨小刺殺
 まで。計り。どく板厨ある。衣箱を。さ。引中。皷云。亡骸。衣箱小斂。搭駝折其
 頭。置れ。中刀。も。搔攫。走。出。小夜の中山。赴。然。而。衣箱。山中。山神の
 廟内。卸。更。中刀。東。距。る。遠。あ。ぬ。山路。小棄。て。走。り。小。在。敷。小夜。二。也
 んが命運。竭。身。祥。多。飲。の。曉。く。中刀。拾。て。衣箱。と。竊。せ。よ。四。老。人。們。小。疑。て
 命。と。預。せ。の。ね。む。身。の。鈍。梅。小。誣。ら。れ。分。説。立。ぎ。曾。根。川。多。獄。舎。小。囚。れ。り。一。か

えふいんふ。ねんごんせう。老。え。よ。と。幾。程。も。藤。松。の。藪。阪。許。後。家。入。り。
 奸夫淫婦の念願成就の時とぬらりと致して幾程も藤松の藪阪許後家入り
 鈍梅と夫婦あり。然。而。前。約。の。多。れ。我。の。折。十。兩。金。の。辛。苦。銭。を。得。れ。と。余
 のら。ま。と。く。の。け。ま。あ。せ。ま。う。
 後。も。亦。左。右。小。賭。銭。小。造。化。多。り。け。れ。い。は。藤。松。鈍。梅。們。錢。を。借。ん。と。幾。番。換。金。に。て
 豪。丐。な。け。小。這。奴。們。の。推。辭。と。さ。る。何。容。々。と。と。さ。る。度。毎。小。此。の。錢。を。并。結。一。た。ま
 ども。竟。中。惡。吉。の。發。覺。る。と。り。や。あ。ん。と。怕。れ。折。り。城。主。曾。根。川。殿。の。地。方。の。多
 人。と。驅。ん。と。情。々。地。捕。の。沙。汰。あり。け。れ。膝。松。鈍。梅。の。折。を。ゆ。夫婦。商。量。あ。る。け。ん
 有。一。目。膝。松。の。城。か。ま。り。て。酒。家。が。騙。賊。多。り。密。許。せ。よ。我。身。の。捕。捕。ら。れ
 たり。既。小。の。美。と。猜。せ。り。我。も。亦。那。奴。們。を。抱。死。て。奸。淫。惡。吉。の。始。末。多。え。あ。る。日。か。れ
 ども。然。し。て。我。の。皷。云。と。殺。し。た。罪。免。れ。な。ら。い。と。思。難。折。り。豫。て。面。面。し。ふ
 は。見。身。の。隣。ま。る。獄。舎。在。り。憎。も。と。の。憎。飽。る。膝。松。鈍。梅。と。執。り。思。ふ。更。か。た。思。ふ
 憐。敗。の。心。も。其。首。小。起。り。たり。我。の。往。処。毎。小。脱。獄。の。計。策。と。設。措。さ。る。の。を。思。ふ

要折の盤纏も亦身を脱る楮梯ゆ。さるるに近た山路は瘴瘴。銭を
 四見おと囚牢司の木免六を結果る我計較首の尾の箇様をかり死
 煩く解示其長総の今も復寐の夢に覺る如く舌を揮う姑くの只感嘆の聲
 の断ぎ係て又荷二郎の長総の対に我妹の奇偶と思ひ。海津の騙局中山の危
 難の我がせり夏るれも竟おの身の必死と極て。兩個の仇と較るれ徳こそある損を
 る。不思議の縁とのつもの。長総額と拵て所謂と听け。過世ありて八重結ひ
 せ。妹伏の奇縁脱れぬ中でのんか。初め身が相計で中刀と棄衣箱と指言を夏
 よ。と小夜二郎が果敢る命と殞せ。可悼るでれれ。如く這身の必死と脱れ
 知る及健言敵と較る果されぬ。大恩特は智慧と禱了。世不提れるま。久後
 馮一かぬ。と答る間小梢焚沸る茶釜の湯氣と俱お立ち。荷二郎の庖福より飯櫃
 索のて携来て各各装の茶陶冷飯一膳二膳三膳。世界不備稀。多似而非胆勇残

るのけの晝飯と權と掃を拭と濡と甚不造ら。荷二郎の納戸の衣皮箱さ
 銭財さ。這那共引下。女服も長総の四五襲被。その身も多被
 更。有餘も銭も。衣の圍めて袂の推包と銭と金と送る。腰不纏る。舞人偷
 竊の熟て脱落る。宛家の東西を火速の打粉適愛。行装。戯れ。其
 菅笠三箇縁頼る。柱拵てのけ。心も。又かへり。あを究竟と拵合。其
 長総の遁と。俱。四皓の村を離れ。茂林驛より。間道岐路人家。遠。山又山路。走
 下。先。河路の。を。投。在。明の。月。笠。傾。杖。導。脚。心。の。程。の
 生憎。天の。明。れ。身。の。暗。影。も。多。く。頼。け。の。介。程。の。曾。根。川。の。城。内。の。月。の
 難。兵。二。名。の。枉。死。ある。と。その。曉。る。不。見。ま。の。あり。よ。塚。見。木。免。六。が。敷。き。の。ま。の
 為。体。並。荷。二。郎。長。総。の。獄。舎。在。る。り。一。這。那。一。度。の。木。免。六。の。大。大。の。大。大。の
 有。司。齊。一。胆。と。淺。と。原。來。木。免。六。が。敷。れ。も。又。難。兵。二。名。の。枉。死。せ。も。荷。二。郎。長。総。の



荷三郎夜復密許意

有像第四十三

所為多下。他們の獄舎と論なりとも。堀と乗り斬り渡して。易くはかたけ頭ふ
 駈れて存り。せん快索ひよと罵り。闇に張燈。其火打振る。樹の陰屋の回を。備
 走隈り。涉獵り。かもの音。往方へ。知れど。天のうらふ。明し時候。列球多斬り。水の
 上。葉を。扒。堀。索。あ。の。け。入。食。さ。す。辱。不。上。と。原。來。荷。二。郎。長。総。の。這。堀。索。を
 の。堀。と。乘。と。水。と。渡。り。と。脱。と。い。ま。他。領。不。到。り。程。の。快。部。と。と。趕。捕。上。と。そ。の。隊
 配。と。い。ま。も。猛。可。の。事。を。難。兵。聚。合。し。左。右。さ。る。程。の。日。升。り。と。既。の。辰。牌。お。り。時
 候。四。老。の。村。長。莊。客。們。が。賊。難。の。訴。の。有。司。の。是。又。訴。と。縁。由。と。鞫。る。村。長。們。が。稟。を
 せ。り。昨夜。真。夜。半。の。り。る。べ。村。の。經。紀。人。藤。松。と。喚。做。せ。り。宿。所。の。強。盜。の。入。り。り。ん。
 屋。主。藤。松。と。女。房。鈍。梅。と。慘。殺。し。て。金。錢。衣。裳。と。奪。去。る。と。の。迹。既。の。分。明。を。素。より
 知。せ。の。如。く。驛。路。を。取。田。舎。の。あ。れ。の。隣。舎。と。い。の。遠。り。の。所。を。知。り。り。ゆ。ゆ。と。天。の。明
 一。時。候。研。ま。者。の。野。田。も。折。見。出。し。て。闇。に。立。る。と。る。れ。情。由。の。往。方。の。元。占。空。占。り。

照驗とての。と。と。と。稟。を。有。司。們。に。を。ち。所。り。藤。松。の。い。ゆ。比。人。荷。二。郎。を
 密。訴。と。捕。捕。せ。り。の。ん。か。素。より。四。老。の。經。紀。人。も。や。と。向。へ。村。長。然。し。他。の。我。村。を。係
 賣。油。郎。で。ゆ。り。小。妻。掣。子。の。あ。の。い。ゆ。日。村。人。鍛。三。郎。後。家。鈍。梅。の。入。贅。した。博。木。見。で
 い。の。不。有。司。們。領。て。然。と。藤。松。鈍。梅。們。を。殺。殺。た。る。強。盜。必。是。荷。二。郎。も。ん。若。們。の
 意。を。知。さ。る。下。昨夜。這。里。あ。の。人。を。害。し。て。獄。舎。と。論。る。囚。徒。ゆ。り。そ。の。御。高。藤。松。が。密。訴
 する。木。綿。張。の。荷。三。郎。と。長。総。と。の。賊。難。の。意。の。件。の。荷。三。郎。の。密。訴。の。怨。を。復。さん。と。く
 昨夜。脱。れ。折。這。里。も。馳。て。那。里。不。到。り。と。藤。松。們。を。殺。せ。り。ん。若。們。の。意。を。ゆ。り。

る。得。と。賊。の。往。方。を。索。ね。よ。実。檢。使。の。義。の。所。せ。の。程。遠。く。の。遣。走。し。罷。取。取。ら。せ。り。
 廿。六。大。家。有。一。言。美。し。と。を。依。退。り。出。す。け。の。今。程。有。司。們。の。鞫。任。幾。十。名。の。荷。二。郎。長
 総。們。を。趕。捕。上。と。部。と。四。方。遣。り。し。主。君。の。お。け。あ。け。て。藤。松。鈍。梅。の。實。檢。使。を
 遣。り。衆。口。と。所。定。の。穿。眼。等。開。き。け。れ。も。時。後。れ。る。る。れ。の。意。の。照。驗。を。り。り。て

當城の主曾根川權頭高春の越る思念を旋りまよしと京へ錦倉へゆえあげたる。
 追捕を送る隈も多て賊の捕るべれども然るに當家の武備はたて忍る不似て影護あり。
 只よの夜小寝下とも。悄かな對酌のその美を林にめられぬ。鶉鳴いしく高く飛で設の響。
 徒に野徑の霜相の朽よりの然り又鈍梅が前夫皴三の村名は怪會見也。亡親の息。
 香草華院へ干蘭盆毎布施せむ墓の荒れても頼れて絶て詰るをみければ況親は年忌
 折々小寺より促まるとも法遊と世話のよ没佛支を待たる。
 強面く女をその説と容れを親のりまう邪怪の一支を推て萬支は
 心術と疎を果たる所親の離れ村人の丸彈と交るのりまう。他が枉死の折も身
 入れて後と憐む。商量敵のりまう。小甚麻を藤松の生平皴三許交加せり。馬心
 けふそのせり皴三が身後小幾程もく兄弟品の好もりける。數阪の家の與るれを遂に
 氷人と哄誘て鈍梅が招贅せりける。人會奇談の甚るもや。原來藤松の豫より鈍

梅と情由のありけり。とを折通て猜せし。今番鈍梅も藤松も死さる皴三も異を成俱
 強姿のふ小屠られと神をぬ身の誰か。あを惡悪の業報を死とぞ知るの。と一箇
 ぬ縁積悪の家餘殃あり。と誠とるま。と深く憐むの。みければ只村人們が披小儘
 多件夫婦の亡體と葬りけるの。墓表と建るの。あは。是る戸籍と除れて竟
 迹るなりけり。案下某生再説荷二郎の。曉天の長総と伴て西へ投て走ると只一
 日の旅る。と河の程を近。と。そ。終京師へ赴く。夜に長総と枕と並て旅宿をふ
 樂とと取らむ。と。長総の他が幫助と。獄舎を踰る。思さ。あ。皴三の
 楫と絶て所寓を身のか。郎態。人並る。一。所。不住の強人。と。今。推辞。し
 る。他。隨意枕と薦めて飽ませ。媚と盡さ。荷二郎の。愛。日。毎。馬。典
 一行轎中も。乗。勤。大。既。京師。到。妻。名。所。親。見。と。兼。走
 る。と。詭。五。條。頭。の。飯。店。權。且。逗留。せ。け。小。程。荷。二。郎。有。一。日。長。総。小。其。く

那曾根川の遠江を口は一城の主なる所既に他郷走りては怖ろしく足らぬも尚將軍
 家へ寄るははれて隈き緝捕の沙汰あり。這頭は在らぬ由断ら似たり我東園を騙局火
 家の焼く事とてその河内州石川郡千劍破村の稍盡外五十榎電次隆光と喚做る
 原是一個の豪傑あり并も強人の頭領を名高る支黨多し。同郡の社院民全
 相敬言て切さる陽武其藝の師範と偕て衣食の足る御士に似れ緝捕の殃あり
 是年来に歴る隨に折々他郷に赴きて豪家より入り商旅を屠ると昔の藤澤入道
 捷れる夜掙を屢も幸ひして賽牛孺の刀尖に遇ふものも尚他郷より石川郡へ掙
 了ふ未だ倫兒の那隊に隸するものあれ隆光を獵合て斬て棄むと云ふれ地方
 於て盜難ありを良賤各々安堵して夜も戸鎖さる雪えり。河内の守護遊佐殿
 是等の風聞を受容れて其馮了りのる地方の扞城多しと疑ふ。疑ふるありは
 河内へ赴きて請て那隊に従ひて緝捕の沙汰を免る身も亦俱に安んずべし然るに

故ゆき婦人を俱して那首に到り相応かむと疑れ因て我又尋思あり。死身の千劍
 破の頭より飯店に潜せ置我先獨那里ありて誘へ身の落着るを折の時宜しとて
 妻とのりて妻とらるべし。尚らりての姉とも妹とももの瞞めせんと欲す。遊莫
 死身の我與姉妹殊年歳も知れ素生ものも諦され後其頭の事も不便之世と
 契りて妹伏の中何のく匿まるとある。情々地地告も知せむやといれて長慈顔らち顔て恥
 羞と云ふ。前夫の薪樵る鎌倉殿の御内老藤白隼人正安同と喚做る。相摸の眼
 代りけし。職禄共の卑し初に脇屋義隆と鼓捕功功の管領二代小龍用
 せられ。權臣で侍り。四月のより湯治の暇とありて底倉逗留の折新田の餘
 類と交する助則とる。猛者小主徒名残を數も果される。不覚ふとて沙汰あり。我
 罪も亦多かりとて説訴するものあり。猛者可采已。賊官せられて刺宅眷と追放の事
 這身と措難て投て往方の定めぬ。獨忠義の若黨もける。鈴笠小夜二郎扶掖れて

一宿二宿と旅寝する折り富士河の頭也。其身の騙局を搦られ。それより後の真言
 患難の豫て知れ次第の侍の前夫の四十二の厄年の敷れぬ奴家の今茲千とのひは、小
 雲時口訥りてたう八世侍か。とのふ井河二郎點頭て意ふは優、方其身の素生録倉
 武士の奥なるも落れか。谷川の水清れば魚栖ま。非除濁り不後。世の倫見は毒
 るとも不自由さ。我あわも。皆是過世の業因る。と必絶意恨のあり。年の二十八
 るん。酒家の一歳の姉をれども。縹致より。ちえの二十とのふと。けあ。わ。総て暴
 拵と。做ま。の。常言ふ。三日平氏運。ふ。向。け。王侯貴人も。及び。か。樂。あり。我。那。五。十
 榎の隊。不。届。て。今。より。河。内。不。あ。れ。と。二。の。町。敵。で。朽。も。果。ん。や。尺。蠖。の。伸。ん。と。ほ。ふ。且。を。身。縮
 む。と。の。口。當。分。の。階。梯。の。を。竟。一。花。開。法。院。の。段。も。あ。ん。等。の。ひ。と。耳。た。示。し。て。慰。ま。す。
 長。総。所。の。微。笑。て。も。憑。り。は。る。か。と。心。も。又。あ。ふ。心。の。と。思。ひ。も。既。今。旅。宿。の
 暮。て。明。れ。心。永。十。九。年。春。正。月。の。中。瀬。時。候。荷。二。郎。亦。長。総。と。て。河。内。の。千。劍。破。不。赴

ゆ。豫。て。計。り。一。言。の。如。く。長。総。と。を。俣。の。千。劍。破。村。程。遠。く。飯。店。不。留。置。て。荷。二。郎。一。個
 身。装。と。五。十。榎。が。宿。所。赴。く。小。名。吉。向。の。地。方。の。武。人。を。れ。尋。ね。難。む。既。不
 その。宅。地。不。近。て。但。え。れ。黒。腰。板。の。茅。庇。の。土。牆。と。左。右。の。方。衡。門。の。柱。の。標。札。を。打。着。て
 五。十。榎。電。次。と。寫。し。た。れ。が。向。い。でも。紛。ふ。も。あ。ま。門。壁。の。内。の。松。あり。梅。あり。折。り。正。月。の。天
 る。れ。燼。曼。る。梅。の。香。の。單。葉。の。既。不。衰。へ。る。あり。八。重。の。南。枝。を。盛。り。其。頭。の。書。院。の。庭
 る。べ。東。の。方。多。孫。相。の。武。藝。の。生徒。の。学。劍。所。多。ん。と。傳。り。て。連。り。不。相。敵。も。木。刀。の。音。す。々
 と。響。え。り。登。時。水。綿。張。荷。二。郎。の。角。門。より。找。入。り。呼。門。と。両。三。聲。立。出。て。來。る。若。黨。の。茶。々
 うち。對。ひ。小。可。い。東。園。も。御。高。名。と。景。慕。し。と。い。ふ。御。門。生。の。多。く。欲。し。由。不。仕。の。推。入。仕
 了。第。這。一。美。の。も。も。京。試。ん。と。以。機。密。の。辨。謁。の。折。方。寸。と。盡。し。ま。ら。ん。と。欲。し。は
 り。れ。の。よ。京。の。か。か。と。の。不。若。黨。あ。る。ゆ。て。ま。る。く。小。雨。寒。時。等。の。ね。と。心。で。奥。へ。思。ひ。く
 時。と。程。さ。ぎ。又。出。て。來。て。卒。這。方。と。荷。二。郎。と。客。房。不。迎。入。り。茶。と。薦。め。を。せ。程。の。学。劍。の

大乃音ハ寝小けり。少選して五十楯をひ下りけり。當日及鼠坊八出て來り。姓名を問ひ來意を訊て小書院へ案内せしめけり。當下五十楯隆光の子雷九郎隆成と腹心の支黨多し。雲館奇峯五白鮫振平出水挺頭三門を左右小後へその身上坐し布儲る。自半皮の裨小着て荷二郎は對面を約ちて為体武備遅く威風凛として二軍の大將の降人を見る所異る。ね、荷二郎は倍する威光を憚りて只平伏するのをり。隆光やよと喚かけ、和主の東國の人りと歎我弟子ふるまき思て訪れより。既の夢我相識人より紹介の書翰と名取願いと問へ、荷二郎否紹介の書翰とてゆひ。小可衛成或人君が機密の趣と具の傳りより。最昔奉りしと、信の推參仕ぬ。先小可が素生も告稟せし。君が機密の然るを不吉や問試なり。在るを退けぬ。な、隆光のへむ。その謀るは遠慮不及。我一家兒小在者。炊妻奴隷に至るまで。一個も腹心ある。況這里小侍る人々の拙郎と熟主門の何れも敢ふとあん。快ち出ね。と、小可荷

郎膝を找め。考へ思慮と盡す。小可の東國也。年來騙局と宗と考え。此の移計もひり。皆是鳥合の小輩也。或は捕れて首を刎れ。或は他郷に離散して去。或は夏より我身一個遠江赴て。曾根川の城下小在り。小知音の為に密訴せらる。城主の緝捕使臣小捕捕られ。緊き獄舎に敷系れ。まの索の断離れ。吊桶等。又出づ。くもわ。と。逆準備も死ふ。ね。疾竹筒の計畧も。曾根川の囚牢司を。一夕穴編小刺殺。遂に獄舎と論言られ。密訴せし。宿所は赴。主人夫婦と敷。果。那宿根。復。此。徳而京師小赴。て春。と。旅宿小迎。か。西。相識る伴も。君。我堂の大將軍也。富。昔の金山小倍。と。挿。了。他郷。と。地方の。來身。偷見。あ。合。斬。棄。ぬ。り。ま。鄙語。小。龍蛇。の。路。蛇。が。知。其。術。精。現。長。久。の。見。計。以。和。漢。未。曾。有。今。昔。无。類。の。豪。傑。と。を。ま。は。け。れ。因。り。小。可。を。騙。局。の。與。の。智。囊。の。長。の。知。れ。る。刃。子。細。工。壁。言。一。時。令。飄。一。時。の。外。入。る。が。如。し。五。指。の。迷。

代不彈人より一巻不價とる。世不立より巨樹の蔭葛藤見出巻れよと世話さる。今
 よるまてのそえも不従ひて二拵にせし緑林冥加稱せんと訪ひまろの一人客を愛はる。胸
 寛くをくち見し賜りハ悦び何事う是か如んや然らば良縁虚かて願ひの隨ふ做らる。六
 適死カと書ま下いふで兼引ぬひか。と舒る聲音の東訛も有敷糸外を憚りて高がねも
 委及辯舌天不欺言ハ地不盟ひて赤心示さる。一癖あるべし回意。寔一人當千の本支を必
 するべし。と思ひぬのまろけり。中ハ隆光ハ所々を領ていひる。趣その意ゆるり既ハ我武
 名と慕ひ。機密も傳へずとあれ。推辞死あななども知音の紹介る故ハ速ハ兼引かた
 かり。約莫我隊ハ屬ま欲しく初て這里ハ來るものハ非除知音の紹介ありとも。投名状ハ晋
 呈せられ。留るとと允され。開も亦あるゆめされ。故と問れて荷二郎然ハ其の美知件ハ
 そいふやうハ寫りやん。教をぬか。と隆光ハ笑ひ。徐ハ左右と云か。汝連件の投名
 状の趣ハ示しぬといハ大家阿と応る。中ハ一人找出荷二郎ハ對ひて。木綿張刀祢を

初て御意ハ得也。咱們的當家の老門生雲錦奇峯五と喚々と。今日今ハ投名
 状ハ筆視とて做りぬ。抑我老先生ハ隨身の志願ありて初て這里ハ來るものハ見家
 贖とて約當郡を除く。外或ハ隣國他御ハ到り。單身ハ。豪家ハ。ちハ。或ハ高
 旅を。剪徑。金銀美芝。獲て先生晋呈さる。と投名状ハ命けり。その執見の佳死
 りハ。軀ハ股肱の列せし。力其首まで。至らるとも。遇ハ儘。一行客ハ。欲殺。ハ。盤纏。ハ。俱ハ
 首級。ハ。實檢。ハ。入れ。され。後々の贖。ハ。せ。られ。股肱の列。ハ。入れ。ね。も。隨身。ハ。允。る。恒例。都。て。の
 如。因。て。投名。状。の。與。ハ。も。の。山城。大。和。二。国。史。の。路。力。ハ。一。十。許。里。遠。途。ハ。二。三。十。里。ハ。過。され。ハ
 往。還。七。日。ハ。限。り。と。出。て。七。日。ハ。及。不。可。也。投名。状。ハ。晋。呈。され。ハ。是。則。縁。起。ハ。速。ハ。他。御。走。り。て
 重。て。這。地。ハ。來。べ。し。足。下。這。地。ハ。能。せ。ら。る。や。と。問。れて。荷。二。郎。ハ。沈。吟。さ。る。腹。裏。ハ。思。は。れ。ハ
 騙。局。と。宗。と。と。れ。ハ。年。來。美。芝。財。宝。も。畧。奪。さ。る。も。不。知。案。内。ハ。重。ハ。遣。り。て。荷
 んと欲す。ハ。往。還。絶。ハ。七。日。ハ。と。ま。入。ん。と。心。の。ね。ハ。猶。能。せ。る。是。非。も。更。ハ。他。御。ハ。越。さ。る。

騙局で二期と過す。過す。過す。その左も右も。通杏と這里。投名状。果て。そ。影と躲せ。い。後指と差れる。最朽。要。難。つ。荒介と。投名状の趣。初。美知。何。明日。小。鬼。神。不測の術。似。而非。雷。九。郎。龍。潭。を。撈。る。夜。殺。氣。を。察。し。て。姑。摩。姫。群。虎。と。夷。々。

第三十二回

暴論親を勵し。雷九郎龍潭を撈る。夜殺氣を察して。姑摩姫群虎と夷々。登時雷九郎隆成。特更。怖。後。癖。妖。荷。二。郎。対。木。綿。張。刀。不。肖。主。人。獨。子。五。十。植。雷。九。郎。隆。成。和。殿。目。今。投。名。状。を。明。日。も。等。た。で。能。せん。の。れ。い。あ。る。ゆ。え。神。出。鬼。没。の。妙。術。あ。る。故。そ。の。所。以。具。不。可。少。く。欲。せ。と。詰。る。荷。二。郎。怯。る。色。多。く。原。來。和。君。の。老。先。生。の。令。郎。也。と。り。ま。せ。よ。る。小。可。之。と。神。仙。飛。行。の。劍。

術と。又。投。名。状。自。限。あ。る。前。知。者。准。備。あ。る。あ。ね。ご。小。可。御。曾。根。川。城。あ。る。獄。舎。小。敷。あ。る。折。脱。れ。る。這。地。に。到。り。當。家。の。下。風。立。た。多。く。此。の。由。の。あ。る。一。夕。獄。舎。と。論。折。隣。れる。獄。舎。に。囚。れ。る。一。個。の。婦。人。と。奪。取。る。俱。と。當。所。に。來。る。を。初。見。參。の。牽。出。物。の。老。先。生。に。獻。呈。す。と。豫。思。ひ。寸。志。あ。る。取。也。更。ま。投。名。状。の。執。行。充。へ。の。あ。る。と。抑。路。か。人。堂。害。し。て。東。西。と。畧。る。還。て。日。久。く。俱。子。因。圖。の。中。に。在。る。婦。人。を。奪。ふ。極。め。て。難。る。條。れ。今。よ。り。七。日。と。限。り。て。他。御。子。替。と。涉。獵。ん。よ。り。件。の。婦。人。を。投。名。状。に。做。さ。捷。徑。の。ゆ。え。と。の。大。家。笑。局。に。入。り。て。そ。の。又。奇。妙。多。く。故。俱。一。た。る。婦。人。の。何。列。人。氏。を。年。の。幾。歳。を。纏。致。し。其。麻。と。向。ふ。荷。二。郎。又。之。て。件。の。婦。人。の。民間。人。と。成。る。の。は。あ。る。と。又。私。窠。娼。婦。の。類。の。あ。る。鎌。倉。管。領。家。の。寵。臣。多。く。藤。白。隼。人。正。安。同。の。室。に。在。り。か。の。事。を。と。も。あ。ら。よ。る。の。ま。け。の。由。に。あ。る。主。從。名。残。る。數。を。不。覺。外。目。と。す。と。其。の。事。に。那。安。同。の。新。田。の。餘。類。助。則。と。の。猛。者。が。主。從。名。残。る。數。を。不。覺。外。目。と。す。と。其。の。事。に。主。刺。宅。眷。と。追。れ。る。那。内。室。の。只。二。個。の。伴。當。と。覺。束。多。く。京。師。路。投。て。申。折。り。

その伴當が偷見ふ似る疑ひ呈禀しより。那身の薄情や近邊の村人們の殺せし。其婦人の捕捕らるて久く獄舎に敷置れり。その主従が冤屈の呵責の原小可が四老。其夫淫婦に憑心れて。外は薛子と移えんと棄る東西。那伴當が拾念する越度より。可這と後悔して。憐愍の心起り。我々云々と地方の城主許て捕捕せし。其件は薛夫淫婦に恨まの堪む。逃脱の計策を旋らして。既而獄舎を踰る折る罪を。其婦人と扱て。薛夫淫婦と殺した。件の婦人の稍衰の花を年齢二十八九。其夫を。其れを標致の世に捷れて。めりさる辨才あり。走筆いと愛して。縫刺の技の。其詩歌管絃の技藝を。學びたり。とみづらり。その名を問ひ。長総と喚做る。其結ぶ便のあり。似る。只是奇貨との多く。這旅賈の東西。と殺る状の帳目。只今浴し。めり。幸ひ。是を優とあり。と。咄目辯舌。其奥を添り。説誇る。隆光。ら。所て連の嘆賞の聲。絶む。猛可。貌を改めて。思ふ。優る人。才幹。その身獄舎。

敷置れと脱去する。即智をの罪る。と。憐を婦人と極ひ。仁をの折。那恨の。其夫淫婦と殺せし。勇又美し。婦人と獲る。と。遊女の售。由。其。犯。内。是。則。信。義。况。件。の。美。婦。人。と。運。查。我。贈。ん。を。わ。て。來。け。の。礼。忠。意。は。仁。義。八。行。を。一。箇。之。も。仍。の。我。當。誰。う。あ。ん。且。目。今。の。れ。ど。前。徑。と。奪。易。く。囚。徒。を。極。の。難。り。言。の。趣。を。意。と。さ。る。快。の。婦。人。を。俱。と。ま。ね。役。の。立。た。の。る。隨。身。の。美。の。拒。障。あ。ら。の。い。と。て。荷。二。郎。怡。悦。の。堪。む。その辱。を。先。見。參。入。れ。ま。つ。ん。姑。く。せ。の。心。を。應。て。馳。て。衆。人。の。楯。を。速。く。旅。店。を。退。け。却。説。木。綿。張。荷。二。郎。の。嚮。長。総。に。留。措。る。飯。店。走。り。て。長。総。と。額。と。合。し。相。譚。を。半。晌。許。那。五。十。棧。許。赴。る。對。面。の。首。尾。箇。様。々。と。投。名。状。の。難。題。を。言。送。も。る。其。報。て。死。身。の。與。面。伏。せ。る。往。還。七。日。と。限。り。あ。る。隣。因。他。傳。網。を。張。て。前。徑。と。支。と。做。ま。を。い。の。し。七。獲。の。あ。ま。を。做。し。容。れ。れ。去。り。這。地。が。來。ぬ。甲。斐。も。後。を。ま。の。あ。ま。を。進。退。其。首。の。谷。の。け。れ。已。と。の。尋。思。と。決。め。竹。様。々。と。説。

道々屋とるをちりあし
長總見引謁隆光
よる及の磯の船かひる身



四の二下

有像第四十四



三の三

五の五

九五

人をねて再考ありと考へて又喚入ると對面を登時荷二郎の恭しく隆光うち對ひ御前思慮を
 盡し投名状の即他を死見せしめんとす隆光含笑多し長総は執着て通愛を
 投じ伏せたる毫も疑念なく木綿張の今日より股肱と憑む者先不忠を取せん長総
 とせんも介意なき俱は遠方へ杖を連り招き近きて馳て不忠與ひけり然し雷九郎首
 とて奇峯五鼠坊八振平挺頭を同惡们也又改め荷二郎と高後と契りし和は酒宴
 酣小既其時候隆光の長総は枕紫琴望む長総推辞由も推居る琴操
 將き浮る雲の富貴組の初老女の拙技合調の紛を聲の稍衰の花小鳥數鳥の已
 が隨ふ轉りしやあ引の山家の耳の新也孰も佳境入るべし炊奴們小嘯囉まぐ庖
 福の方より来て来て紙門を隔て听も言るは悉て日暮れ更闌て泥の如く酔ゆるを隆
 光はのまると稍盃盤を收めりて辞して奥へ退る折卒や臥房を覗せんとて獨長総は携けり
 以て隆光の御前をの妻世と去りて寤寐の枕寂かりしを思ひわく趣ある妻を獲りしを

既ありて年才長しその子雷九郎の羞るる道徳の遂ふの夜を始として長総と俱に睡
 る他の素より淫婦の房事の鏝鏝也男子は湯きり段あれ隆光の愛懼て巫山の雲
 楚雲室の雨の月隠るるとも花の雨合るも修も眺め不復とありと思ひそのやうとひとて听
 かるる程程もある推登しと後妻もあるは是よりして長総の家事を改めんとす
 威光あり荷二郎と見るとも宛奴僕も異なりと朽をばりし荷二郎悄悄と地を恨みて
 原来長総の思ふ背に上人の衣領を着るも然しと思ひて密に謀るもよしあると
 尚頭領の報もせし我身の安危其首の在りゆせきと齒を切ると胸を焼く火の憤と度ま
 へりまりし再思ひ旋ま長総が這日屬我といふ尊大なる人の疑ひを定むる故意
 強顔く以做まると然し性起ると他を怨ま婦女子の劣る後悔あり短慮功成
 かつ愚心知けりと生悟と胸を鎮めて色あもせしむる老実の事もの長総が意を
 あげ荷二郎の身の與る再生の恩ある似れし小夜二郎が枉死するもその身の囚徒とあり

も初を推其荷二郎が澳津の歌店の騙局お起り。今後も又壁と頼り。怨と思ひ思でも
 る。況他の面も脚も舊瘡の迹のまを山操の似る醜郎る。妻と喚れ夫と稱へ長光
 陰を銷らば。渡世の山豪の五千槌。舌の苦味ある。郎態凛として。且一隊の頭領。面影
 物のいさめ。何処やら。前夫藤白主。似たる。年の齡も少から。増は。那木綿張の
 比。五六歳可の兄と。あれ。然る老朽。身中。何不足。二路懸る。あわん
 ぞ。又。御前荷二郎が。示す。密策。お推念。他を。奴僕。の如く。最鷹揚。お奉動。どの有
 敷。おまの。破れ。と。怖れ。荷二郎が。廂座。を。借て。母屋。を。合。んと。欲。し。ぬ。那計較。の。趣。と。隆光。の
 報。も。せ。左。も。右。も。機。と。攪。て。狐媚。と。逞。く。考。り。く。隆光。の。感。弱。ま。て。その。身。の。他。郷。
 夜。掙。お。出。せ。る。子。雷。九。郎。隆。成。の。下。の。衆。賊。と。従。て。折。り。那。這。遣。り。その。夏。の。趣。の。第。三。
 集。五。の。巻。の。首。も。見。え。る。如。し。看。官。前。後。の。照。応。の。意。と。屬。是。所。間。話。除。煩。介。程。の。春。の
 行。夏。も。過。る。是。年。の。秋。と。宋。月。の。時。候。五。千。槌。雷。九。郎。隆。成。の。雲。館。奇。山。奉。五。曾。反。風。坊。八

白鯨振平。出水挺頭。木綿張荷二郎。們と。俱。不。許。名。の。小。嘸。囉。と。お。夜。掙。の。為。か。大
 和路。赴。た。る。が。捌。月。の。初。旬。お。か。り。ま。つ。及。功。と。獻。く。那。地。の。首。尾。と。報。り。く。隆。光。の。旁
 ん。と。次。の。宵。酒。宴。の。席。と。開。て。約。莫。五。個。の。股。肱。們。の。小。嘸。囉。の。酒。を。喫。り。て。大。か。り
 る。管。待。け。れ。不。善。の。數。巡。る。隨。お。送。り。勅。勇。武。藝。お。誇。り。を。辨。論。口。角。あ。る。も。あ。り。し。隆
 成。や。と。推。禁。せ。各。位。さ。の。自。負。ま。ま。る。今。番。大。和。路。の。夜。掙。も。這。頭。願。負。數。比
 る。誇。る。は。獲。の。お。か。り。然。る。と。徳。我。大。人。の。酒。肉。を。費。し。ぬ。思。ひ。俱。の。恥。を。さ。す。と。君
 ら。と。驚。お。さ。る。大。家。ひ。と。頭。と。擡。て。現。い。ら。れ。その。理。あ。り。し。と。お。り。の。酒。の。過。を。醉。て。を。い
 る。と。陪。話。て。貌。と。改。め。る。登。時。雷。九。郎。隆。成。の。父。隆。光。の。對。面。向。も。諫。察。せ。し。も。用。全
 ら。ぬ。の。申。斐。乎。と。お。さ。る。も。已。く。夜。掙。の。家。法。之。河。内。の。住。居。の。團。郡。を。い。豪。農。富。満
 あり。と。の。も。一。度。も。犯。し。ぬ。故。の。地。方。の。民。の。愛。敬。せ。れ。て。緝。捕。の。禍。を。遠。慮。の。人。の。又。し
 所。の。理。あ。る。と。お。さ。る。も。亦。時。宜。し。と。お。さ。る。秋。這。里。より。程。遠。く。在。莊。院。の。九。柱。姑。摩。地。

えへ楠氏の餘類も正元の女見まうと誰ぞ知らぬものも。且世の風聲も隠れもた他を男
 魂あり。父祖の怨と復さんと。情々地京師小赴にて。室町の御所へ偷入り。小夏頭にて生拘られ頭
 加りまうと幸ひと赦れ遇て。刺差我の仙院より。金千両を賜り。却室町殿より楠正直主成
 後見ふと。故郷へ還るの心あり。五月の比きけ。件の金も無き。那姑摩姫の刑餘の孤
 児武藝胆勇ありと。長の知れる国秀。我々那黒夜敷。七件の金も奪奪人。その事
 後ふつあとも。室町殿へ仇を冤ひ。のりあれ。良民の習されと。同下が守。遊佐誌。中も是等の
 斟酌あり。緝捕の沙汰不及。を信れば後安し。と。天の與ると取られ。還て咎と受るといふ。
 古語もあり。と。つと。任臂近。て。祟り。ん。東西。合。て。猶遠く。涉獵。多。い。の。を。快々
 以て起。ひ。と。席と拍。つ。説。薦。と。隆光。聽。を。頭。と。掉。を。の。説。決。と。无。用。元。和。郎。の。い。ま。
 那姑摩姫。い。ま。罪。人。只。足。女子。と。も。て。再生。の。思。免。あり。故郷へ還。る。の。心。も。室町殿を
 悔り。か。思。食。され。と。那叔父。正直主。と。て。後見。ふ。と。勅。静。と。現。れ。ま。れ。ま。う。如。此。の。件。の

妙の萬夫不當の武藝。長。と。我。們。設。捕。る。室町殿。の。胸。安。思。召。ま。ん。見。當
 國の守護。遊佐主。物怪の幸。と。然。と。人。も。馮。以。毛。吹。て。疵。と。未。め。後。悔。其。首。ふ
 達。と。已。れ。と。制。と。陰。成。呵。と。ら。女。笑。て。麒麟。の。老。て。馬。馬。の。大。人。の。遠。慮。の。酷。と。過
 於。思。の。豫。も。是。を。計。較。と。て。那。莊。院。の。光。景。と。密。々。と。現。ら。其。頭。の。人。の。噂。を。笑。ま。る
 このひ。姑摩姫。仕。る。の。若。黨。僅。一。名。の。餘。の。奴。隸。農。僕。或。の。姉。妹。炊。爨。ま。る
 あり。の。ひ。を。衆。主。の。少。女子。が。一。人。當。千。の。勇。あり。と。寡。と。て。衆。の。敵。せん。克。進。退。を。約束
 也。暗。牖。と。定。め。前。後。の。門。も。負。數。と。盡。と。細。入。ら。姑摩姫。三。回。公。肩。あり。と。防。禦。小。遣
 中。と。敷。を。捕。れ。と。疑。ひ。る。あ。の。説。任。の。ひ。と。勢。と。猛。説。薦。の。身。雄。は。励。ま。れ。ん。隆
 光。憶。も。太。息。と。吻。と。然。ま。る。お。ま。ま。へ。猶。且。衆。議。不。應。え。の。心。四。下。を。か。り。て。和。殿。目。今
 听。る。如。し。其。の。利害。の。心。意。見。の。あ。ら。ま。う。ほ。の。れ。て。大。家。阿。と。ら。拒。ま。る。又。隆。成。小。若
 や。れ。ん。と。欲。送。の。目。と。目。と。注。ぐ。も。俱。の。醉。を。癖。る。れ。深。念。及。び。那。信。の。異。口。同。音。く。交。る

小先生の軍界は皆悉ちの圖に當れり。非除姑麻姫勇婦とも。我們も亦本事あり。勝負を
 人の譲んと思ひ立ちか。カシカシと必勝の大利を俱ふ仕んとす。隆光點頭て。多う我も亦
 俱ふ那里へ赴きて。進退の指揮をせん。為案内を知ると。同謀兒を遣して。よく虚実を探
 りまへ。と。隆成は。あまの。安ん。兒逆那莊院の光景を。現して。方位廣く。沈
 寫し。縮圖あり。是。尙。懐より。出。繪圖二張。親の身邊。ち。用。奇。峯。五。所。坊
 八。振。平。挺。頭。三。荷。二。郎。も。燭。臺。の。下。右。一。膝。を。找。めて。親。の。連。の。隆。成。の。用。意。を。賞。讃。し。り
 け。多。中。雷。次。隆。光。の。肩。を。合。て。件。の。繪。圖。那。這。と。指。示。し。是。を。前。門。の。内。あり。又。後。門
 へ。子。の。當。れ。東。向。矮。樓。あり。又。庫。藏。後。と。前。あり。這。餘。負。る。な。も。假。山。金。池。庭。の
 樹。枝。漏。之。隈。を。と。圖。な。前。門。の。我。們。子。子。雲。館。曾。反。自。敵。勢。之。找。めて。階。合
 下。又。後。門。の。出。水。木。綿。張。十。五。名。の。下。下。暗。晝。と。違。と。探。合。し。勢。を。脱。く。べ。と。の
 夜。の。様。に。擬。滞。り。思。ひ。隨。勝。不。乘。も。人。を。殺。せ。功。を。せ。只。那。貨。財。を。擡。擡。ひ。快

退く。至。妙。と。走。餘。機。の。臨。ま。妻。不。応。と。と。老。煉。の。提。調。大。家。感。服。し。兼。り。と
 応。々。舊。の。席。は。退。く。と。隆。光。改。め。不。要。又。巡。り。酒。宴。與。前。祝。現。強。人。の。當。喫。を
 吹。播。猜。拳。開。し。中。の。夜。船。漕。も。あり。羽。の。命。も。彼。を。立。ま。惜。し。丸。圍。坐。し。是。欲。海。の
 底。を。高。量。沙。量。の。板。子。推。並。竟。天。の。一。網。か。る。毒。魚。の。口。か。酒。菜。豆。茶。は。身
 代。の。裏。返。と。骨。を。折。る。異。日。夜。偷。の。高。量。と。不。醉。も。不。醉。り。却。説。の。詰。目。雷。九。郎。隆
 成。の。身。の。立。意。見。し。稍。聽。され。心。男。を。要。時。も。あ。の。夜。の。人。數。を。定。ん。と。五。個。の。股。肱
 們。を。促。し。共。侶。の。親。の。身。邊。へ。赴。て。必。高。議。及。び。を。隆。光。は。肩。の。頻。叩。め。那。姑。麻
 姫。武。備。の。疎。る。農。戸。坊。賣。と。同。か。ら。多。の。近。邊。の。那。叔。父。正。直。の。宅。地。を。備。八。九。の
 莊。院。の。夜。敷。入。り。ゆ。と。少。知。士。卒。を。找。めて。我。黨。を。敷。捕。し。と。欲。す。然。し。前。後。の。敵。を。受。け
 進。退。難。美。及。ん。致。其。頭。の。准。備。の。不。足。と。向。の。隆。成。微。笑。て。その。意。を。豫。め。り。那。正
 直。姑。麻。姫。の。叔。父。あ。れ。と。中。が。不。知。り。と。室。町。殿。より。後。見。せ。れ。と。名。這。定。め。り。り。く

推量する。夜敷の日のつらさも正直決して極さず。且その途中山川の救ふも速くおてある。乙申も御知し。人感伏し共侶。今宵更蘭て襲下。時日延き計畧の海も悔。聚合り。其の準備と做し程。這目既お甘れ。五子槍父子と五個の股腕の身甲の股鎧。臍指をさく。器械と引提す。這餘相従小嘸囉。鏢細衫を脊一被籠て腰。各山刀と跨。或は角弓。扒牆索竹槍。桿棒。隱形把火。堀槍。と肩おさる。あり。打拵物も。準備既お整ひ。長総。乙申夜より。炊奴と。て。五子槍父子の隊の賊も。戦飯と。利禰を祝。潜す。目送り。徳而五子槍電次。隆光。是夜中。の比。及。先。下の小嘸囉。五名。死。遺。その身。父。五個の股腕。と共侶。徐。八。九。村。赴。程。子。三。刻。時候。登時。五子槍。隆光。八。九。の莊院。より。一。町。なる。這。方。茅。林。蔭。不。衆。賊。を。聚。合。し。着

到を檢する。約莫。三。五。名。あり。即便。これ。を。三。隊。分。ち。て。于。個。の。小。嘸。囉。出。隆。光。隆。光。成。頭。奇。峯。五。鼠。坊。八。振。平。の。副。頭。領。と。是。這。七。五。個。の。小。嘸。囉。出。挺。頭。五。荷。二。郎。の。兩。頭。領。を。後。門。より。找。む。部。既。不。定。と。挺。頭。と。荷。二。郎。の。隊。の。賊。徒。を。從。て。を。投。げ。又。赴。け。け。姑。且。と。隆。光。の。梁。渡。念。珠。七。八。艘。飛。蚤。介。と。喚。做。る。兩。個。の。小。嘸。囉。を。召。迎。着。若。們。の。牆。踰。隙。隙。と。鑽。る。長。う。め。快。姑。摩。姫。の。莊。院。に。潜。ひ。入。り。那。這。火。を。放。ち。前。後。の。門。を。閉。下。ある。る。秋。と。も。れ。と。い。う。れ。念。珠。七。蚤。介。兼。り。身。起。し。莊。院。を。望。み。走。り。左。右。ま。る。程。の。夜。夜。稍。丑。近。急。の。莊。院。に。暗。號。の。火。も。發。ら。ぬ。然。り。と。件。の。小。嘸。囉。們。が。本。が。れ。虚。実。も。知。れ。大。家。太。く。待。不。樂。他。們。日。屬。不。似。け。も。今。宵。の。暗。號。の。と。は。誰。さ。よ。う。お。ま。け。と。喚。け。雷。九。郎。焦。燥。て。鄙。語。の。魚。曾。鈍。る。良。人。を。等。び。茶。も。冷。る。這。里。也。物。魚。ん。の。我。身。ひ。り。潛。入。て。快。火。を。放。て。暗。號。を。せ。ん。と。い。う。も。走。去。ん。と。七。け。隆。光。急。に。推。林。下。り。和。郎。の。本。事。の。覺。あり。と。も。後。生。の。單。身。也。虎。先。入。ん。極。を。危。い。え。と。も。不。熟。る。一。個。の

老兵を伴ふ。と云ふ鼠坊八代。願ひ在下小先生と俱先登仕。と云ふ隆光。と云ふ和殿。隆光と相資て。那里不到。支成り。と云ふ。小心者のか。と云ふ。屬を鼠坊八代。心も果。隆成。後。と云ふ。走。り。程。後。門。路。潜。寄。り。挺。頭。三。荷。二。郎。們。半。五。個。の。小。嘍。囉。と。引。出。て。左。右。を。い。ら。ち。も。入。る。豫。期。な。り。ゆ。め。内。に。暗。號。の。火。の。起。り。今。う。と。等。う。け。る。五。三。と。云。ふ。時。候。ま。で。萬。籟。聲。多。寂。寞。な。心。疑。ひ。相。長。び。今。ま。で。暗。號。の。火。必。足。故。あ。べ。と。云。ふ。荷。二。郎。沈。吟。と。然。れ。ど。前。隊。の。人。を。走。り。と。問。ひ。其。怖。れ。と。云。ふ。我。先。獨。潛。入。り。内。の。虚。実。を。現。れ。今。ゆ。躊。躇。さ。る。と。云。ふ。白。小。情。語。た。て。た。か。塔。索。と。云。ふ。横。に。登。り。内。を。入。り。け。ん。程。五。十。植。電。次。隆。光。の。雲。館。奇。峰。五。白。較。振。平。們。と。俱。ゆ。り。隆。成。們。が。暗。號。と。等。し。是。も。亦。功。見。ま。の。之。深。る。秋。の。夜。の。星。光。と。瞻。仰。て。惘。然。と。云。ふ。嗟。嘆。の。堪。き。衆。賊。と。見。且。を。念。珠。七。番。介。の。と。雷。九。郎。と。鼠。坊。八。代。俱。の。暗。號。と。錯。し。生。拘。れ。れ。放。敷。き。れ。放。敷。の。安。危。を。思。惟。る。不。凶。言。と。吉。言。と。然。と。も。今。ゆ。り。他。們。を。棄。て。問。答。々。々。と。退。く。途。路。を。是。非。及。至。

我。目。の。安。危。を。看。定。て。大。家。立。ね。と。焦。燥。る。提。調。誰。の。礙。設。と。云。ふ。然。れ。ど。此。の。隨。隊。伍。と。乱。て。莊。院。の。前。門。に。推。寄。れ。先。小。找。り。小。嘍。囉。と。云。ふ。塔。索。と。打。掛。を。潛。入。り。の。兩。三。名。共。侶。降。立。て。角。門。の。片。折。扇。を。と。り。用。は。大。家。に。便。り。と。云。ふ。存。一。内。中。又。下。五。十。植。電。光。四。下。と。急。小。見。か。る。前。面。の。女。園。の。右。の。庫。藏。あり。左。と。則。庭。門。の。竹。の。兩。折。扇。の。半。分。用。て。も。原。來。我。見。も。の。餘。の。者。も。這。里。下。り。て。入。り。つ。り。這。方。找。り。と。低。語。く。先。小。立。つ。入。程。の。忽。地。物。の。跌。れ。と。訝。り。る。が。小。嘍。囉。の。隱。形。相。人。を。兼。て。相。見。は。是。則。異。物。と。云。ふ。鼠。坊。八。代。屍。骸。と。云。ふ。韓。計。割。り。か。ら。ま。た。り。俱。の。駭。く。衆。賊。の。ゆ。り。る。隆。光。連。の。小。嘍。囉。と。云。ふ。思。ひ。合。は。れ。我。見。の。體。入。り。の。如。し。四。下。を。下。と。遠。く。ゆ。り。找。り。庭。の。樹。の。下。或。は。池。の。畔。書。院。の。造。方。を。合。計。し。二。名。の。ゆ。り。る。雷。九。郎。隆。成。の。身。首。所。を。異。せ。鮮。血。の。草。並。木。を。這。り。下。り。這。光。尾。の。又。駭。く。衆。賊。を。勵。ま。隆。光。の。齒。を。切。り。眼。を。睜。り。と。朽。多。し。哉。鼠。坊。八。代。二。名。を。我。



こまひめ

かひてある虎のねらひ給ふといふと
 衆賊不戦而辟易女族神威
 久志者えその山おろし風

有像第四十五

より平

久志者えその山おろし風

三十一



久志者えその山おろし風

久志者えその山おろし風

久志者えその山おろし風

第三卷五の
巻のそと
物語
後
前
後
を
照
す

見まを敷きせし怨の九の世を易るとも忘るべし今ハ倒置の境に快打の挿入を
姑麻の姫主僕を生拘と敷きし一の魔を奈らん後まをせと孰に置る敷き
奇峰五振平上干許名の小嘘囉を找めく咄と入らんたる書院の雨戸を東に開
焼小一枚用ひありし群賊其首中目かけを堀植をりし雨戸五枚一度小鏡を
破て挿入んと競の縁類の簾然と立る一個の美女の短刀を引提て外目を照る奇
俠の胆勇内強くく外弱に圍衣姿の尽まらざるも乱れぬ細子の帯長に其を那
這と結まて翠做を柳の曹の軟竹の雪の肌膚を糸を結とも化粧の清き
月の眉花も実もあは容貌の問でも多死姑麻姫と人と猜し系らも草賊們と
不意を打まき阿とるる小存一撥と退らけは畢竟の折姑麻姫が防戦を勝
肩甚麼をぞとこの回の題目と有像もよくも知れぬか。

全止 治

平癒

開卷驚奇俠客傳第四輯卷之一終

